

■ 亀戸地区 第3回 自分のまちのプロジェクトをまとめよう

城東北部地区（亀戸+大島地区）の将来ビジョン案

城東北部地区は亀戸地区、大島地区の2班に分かれて将来ビジョン案を検討しました。2班のワークショップの意見に基づき、事務局にて城東北部地区全体の将来ビジョン（案）をとりまとめました。ビジョン案は今後、行政と調整し表現を精査する予定です。

多様性、防災性を基盤に、河川や新しい交通を活用した地区連携が進み、
 新たな歴史と文化、魅力や交流が創造され受け継がれる、
 楽しく住みやすいまち

亀戸地区

高い生活利便性と防災性を基盤として、河川や新しい交通（貨物線の旅客化、コミュニティバス、シェアサイクル..）を活用した地区連携により、歴史と文化、アクティビティに着目した新たな価値が創造・発展するまち

大島地区

アクティビティや多様性を基盤に、新たな文化と魅力、交流が創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち

1

■ 第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 深川南部地区

※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加

城東北部地区（亀戸地区）の将来ビジョン（WS最終案）

高い生活利便性と防災性を基盤として、河川や新しい交通
 （貨物線の旅客化、コミュニティバス、シェアサイクル..）を活用した地区連携により、
 歴史と文化、アクティビティに着目した新たな価値が創造・発展するまち

【亀戸地区】

エリア	エリア別の将来ビジョン案
亀戸駅北口周辺	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な拠点にふさわしいシンボル性があり、誇り高いまち だれもが生活しやすい都市機能が充実したまち 安全安心に歩いて楽しむことができ、にぎわいが絶えないまち
亀戸駅東口周辺	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な拠点にふさわしいシンボル性があり、安全安心に活動できるまち 人を呼び込む都市機能が充実したまち 緑豊かで歩いて楽しいまち
亀戸天神周辺	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設や歴史資源、商店等の連携による、だれもが活発に観光・回遊しやすいまち 観光資源や水辺と緑の資源のつながりがあり、様々なアクティビティが持続するまち 時代と共に更新が進み、災害への備えができています
亀戸5丁目	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強く、下町の雰囲気漂うまち 水辺と緑の空間で様々なアクティビティが行われ、まちなかの連続性が感じられるまち

・交通拠点の整備（コミュニティバスの発着）

・住宅集積地の防災性能強化（亀戸天神、3・5丁目）

※下町らしい町並みを残しながら再開発

・通勤路線（LRT/コミュニティバス）の充実し江東区の南北軸強化（亀戸8・9丁目）

・防災を核に（南北を繋ぐ高架橋）

・4エリアの商店街がエリア間をつなぐ

2

■ 第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（亀戸）

※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加

高い生活利便性と防災性を基盤として、河川や新しい交通
 （貨物線の旅客化、コミュニティバス、シェアサイクル..）を活用した地区連携により、
 歴史と文化、アクティビティに着目した新たな価値が創造・発展するまち

第3回ワークショップ、オープンハウスにて、将来ビジョンに関連する意見を頂きました。

カテゴリ	意見
防災 駅前空間 観光 発展	<ul style="list-style-type: none"> 駅前再開発と歴史的観光資源、昔の街並みと防災防犯などの都市整備などある意味相反する命題をいかに融和させるかが重要 水上バスの取組みは一度失敗しており、船着場が釣り場のようになっている。藤棚にしたり、ライトもつけていたりしているが知られていない。スカイツリーの方まで行ければ観光の取組にもなる。 亀戸副都心は難しい。江東区の中心は区役所の周辺というイメージがある。+副都心化はやはり方次第。旅行会社で訪日外国人も担当している。亀戸に宿泊してもらうことが多い。南側にも行けるし、浅草にも近い。資源として活用できる可能性がある。 水路を押し出していくような観光開発が出来れば起爆剤になる。
防災	<ul style="list-style-type: none"> 亀戸エリア共通に、木密だけでなく、水害対策も必要なエリアだと思えますので、「安心安全」の観点を入れた方がいいのではないかと。各回、垂直避難というキーワードは出ていますので、反映が必要かと思えます。災害への対応と、日常の賑わい創出や回遊性向上などのまちの活性化は共存できると思います。
歴史と未来（北と南）	<ul style="list-style-type: none"> 神社仏閣や住宅集積した「北側」・旧サンストリート跡地のマンション開発「南側」のコントラスト、「歴史と未来があるこれからの街」 古い下町らしい町並みと防災性能の強化、調和していく町並み
地区連携	<ul style="list-style-type: none"> 各エリア同士も繋がる（連携する）という視点も加えたらどうでしょうか。 地域よりは隣接している「地区」 線状の商店街がエリアをつなぐ
暮らし 発展	<ul style="list-style-type: none"> 亀戸の住宅・マンションの賃料が高い、若い世代、多世代が暮らせる安い住宅を供給 住宅集積地の防災性能強化、下町らしい町並みを残しながら再開発 【亀戸天神、3・5丁目】 江東区全体として、新しい人々を集めてほしいといけません。街づくりとしてハード面だけでなく、ソフト面も含めて考えていかなければならない。南側に新しい人が引っ張られてしまうので、北側にも新しい人を呼び込めるような仕組みがあると面白い。

3

■ 第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（亀戸）

※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加

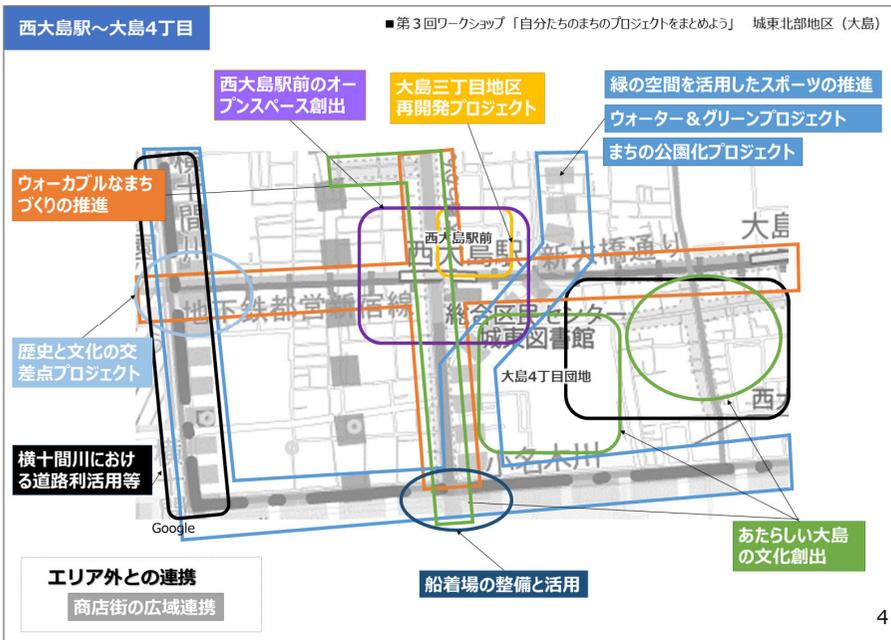
高い生活利便性と防災性を基盤として、河川や新しい交通
 （貨物線の旅客化、コミュニティバス、シェアサイクル..）を活用した地区連携により、
 歴史と文化、アクティビティに着目した新たな価値が創造・発展するまち

第3回ワークショップ、オープンハウスにて、将来ビジョンに関連する意見を頂きました。

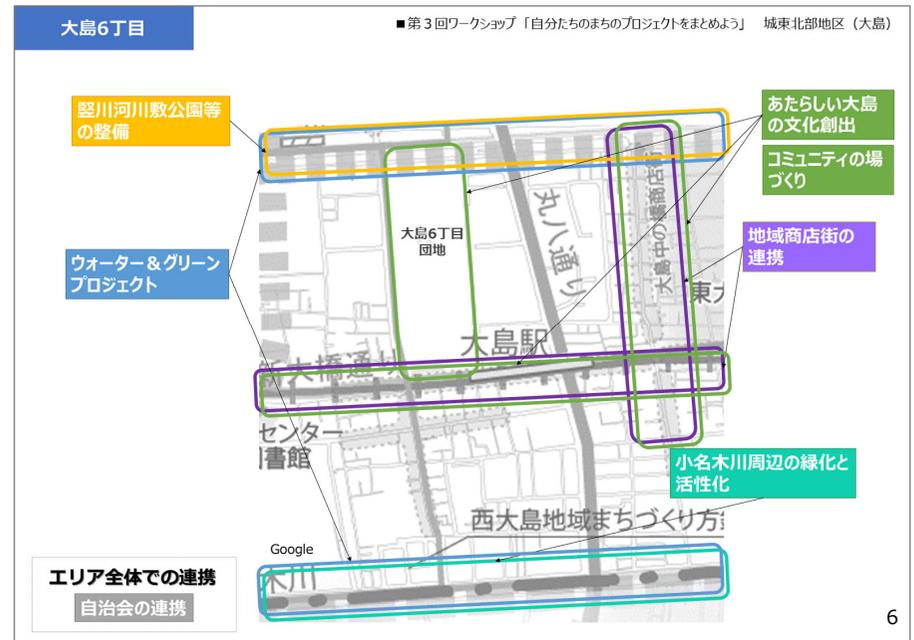
カテゴリ	意見
河川の利用	<ul style="list-style-type: none"> 亀戸北部の内部河川の利活用（日常利用+観光） 大島を立体的に繋ぐ河川を日常利用+防災利用【亀戸東船場（横十間川）～北十間川～亀戸中央公園（旧中川）】 河川のネットワークと拠点整備（「旧中川・川原の駅（カフェ+お土産売場）」）
交通機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス、スマートモビリティで地区間連携・回遊性を向上（高架橋などのハード整備の橋渡しとして） 新しい交通（貨物線の旅客化、スマートモビリティ、シェアサイクル..） 陸上交通だけではなく、水路を日常・観光利用 通勤路線（LRT/コミュニティバス）を充実させ江東区の南北軸を強化。【亀戸8・9丁目】

4

西大島駅～大島4丁目		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島） ※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見	
将来イメージ案	将来イメージ（第2回WS意見）	取組	
都市型拠点にふさわしい、高い機能を有する駅前エリア	<ul style="list-style-type: none"> 大島エリアの核 西大島駅は住吉、錦糸町に近く都市型拠点。大島エリアの中で新しいまちのあり方を示せる可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 大島三丁目地区再開発プロジェクト：ターマションを中心とした画期的な新しいまちづくり。防災施設と賑わいを持たせる。三丁目の再開発は進行中であるが、具体の計画はまだ未定のため、三丁目開発の結果を踏まえた全体のバランスを取る必要がある 	
個性ある商店街が連携し、にぎわいが絶えないまち 商店街や公園、団地、町工場が連携し、新たな文化が創出されるまち	<ul style="list-style-type: none"> 西大島（と東大島）は商業地区のイメージ。明治通りを中心とした商業機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域商店街の連携：各商店街の異なる特徴（例えば川沿いに近い、駅前に近い等々）を活かしながら、相互に連携して共同で取り組む 商店街の広域連携：エリア内の3つの商店街に加え、大島地区全体の8つの商店街で連携 あたらしい大島の文化創出：町工場が有する多彩な技術、地域に根付いた商店街、オリエンタルガシヤであるスポーツ文化、海外からの方が持つ異文化など、まちの魅力をより身近に体験できる場を、オープンスペースである大規模団地や公園、そして商店街の空き店舗に実験的に設ける 	
スポーツなど多様なアクティビティが行われ、歩いて暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> 東西だけではなく南北の動きのあるウォーカブルなまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 緑の空間を活用したスポーツの推進：緑道公園を活用したスケボート練習場などスポーツでの活用が出来るよ（音の問題、管理は課題）緑道公園は都の指定管理（日比谷アムス）でハンドボール施設が運営されているが課題もある+都電を走っている跡地が緑道公園になっていて、桜並木にもなっている。人と自転車が高齢。歩行者専用の緑道にしてほしい。休みの日にはカフェなども出店され、にぎわいが出てくると良い。 ウォーカブルなまちづくりの推進：大島4丁目は小名木川が古くから親しまれていて精神的な拠り所になっている。団地から緑道、駅、再開発地区が連携していること、東西だけではなく南北の動きが出来るウォーカブルなまちを推したい。 歴史と文化の交差点プロジェクト：城東北部をぐるりとめる船の北回り航路を巡りながら各地点でいるいる体験ができ江東区についての理解が深められる場所。船の上から川沿いを舞台としたパフォーマンスも楽しめる。 横十間川における道路利用等：川沿いの道路を一部テラスとして利用 カフェや模擬店 和船も田中川は係留場所の延長にあたるこの方が搬送しやすい。音楽、マシナなど可 船着場の整備と活用：進間橋周辺に船着場を作って、主要な核にしていく話もある。+観光の視点で、船着場の空間演出ができる。今度コミュニティガーデンを川につくことになっている。行政の連携も含めて柔軟に取り組みようになると良い（例：高橋）。 	
コミュニティが地域の資源を活用して育まれ、交流が盛んなまち 公園のような魅力が身近に感じられるまち	<ul style="list-style-type: none"> 「どの銀行」のようなコミュニティの拠点、交流の場が豊富 区内でつづる場としてのまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 西大島駅前のオープンスペース創出：西大島駅周辺は滞留空間が乏しいため、連携してオープンスペースを生み出しながらまちの広がりを出せるよ ウォーター&グリーンプロジェクト：各町会と商店街による、緑道公園等でのカフェ等の出店 まちの公園化プロジェクト：河川や緑地を活用した交流や活動（防災ゲームやマルシェ、キャンプなど）、街をまるごと活用したアクティビティ（ウォーキングやマルデックワークなど）、緑陰空間を誘引する植栽管理、まちに開かれた団地の緑地整備などを進める。3丁目緑道公園では、自転車を含め出し、人のみが行きやすい緑あふれる道の公園、島の巣箱、ベンチ、一年中ぼんぼりを設置 	
地域の資源が連携する、防災力の高いまち			



大島6丁目		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島） ※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見	
将来イメージ案	将来イメージ（第2回WS意見）	取組	
落ち着いたある住宅中心のまち	<ul style="list-style-type: none"> 大島駅周辺は東西にまちづくりがなされていて、今後も住宅中心のイメージ すこし落ち着いたまちのイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> — 	
個性ある商店街が連携し、にぎわいが絶えないまち 商店街や公園、団地、町工場が連携し、新たな文化が創出されるまち	<ul style="list-style-type: none"> 新しい文化創出の起点。文化的なイメージがある。 商店街や団地の中に交流の場のあるまち 	<ul style="list-style-type: none"> あたらしい大島の文化創出：町工場が有する多彩な技術、地域に根付いた商店街、オリエンタルガシヤであるスポーツ文化、海外からの方が持つ異文化など、まちの魅力をより身近に体験できる場を、オープンスペースである大規模団地や公園、そして商店街の空き店舗に実験的に設ける。4丁目が都市的であるのに対して大島駅、6丁目南側は文化的、文化という視点で新しい文化創出の起点になり得る。小さな動きから大きな流れへと結びつけていけるとよい。 地域商店街の連携：各商店街の異なる特徴（例えば川沿いに近い、駅前に近い等々）を活かしながら、相互に連携して共同で取り組む コミュニティの場づくり：廃業した店舗が更地や住宅になりつつある。区が買い上げてコミュニティの場を作れないか。 自治会の連携：商店街の店舗自体の活動があまり積極的ではない。一つの組織が人を集めるような形でまとめる必要がある。 ウォーター&グリーンプロジェクト：各町会と商店街による、緑道公園等でのカフェ等の出店 	
水辺と緑、住宅地のつながりがあり、くつろげるまち	<ul style="list-style-type: none"> 江東区内でつづる場 	<ul style="list-style-type: none"> 小名木川周辺の緑化と活性化：大島、砂町両方にとってよい。船番所周辺は江戸時代にちなみ柳のままであるが、小名木川沿いに桜を植える活動をしている。 竪川河川敷公園等の整備：子供たちの球技遊びや、高齢者のパターンゴルフなどの利用頻度を上げる。町内や長寿会、各学校に声をかけて、安心、安全をアピールする。ベンチを増設し、ブルーシートは撤去する。 	
地域の資源が連携する、防災力の高いまち			



小名木川・旧中川・豎川周辺		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島） ※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見
将来イメージ案	将来イメージ (第2回WS意見)	取組
水辺と緑の資源が身近に感じられ、居心地の良いまち	滞在して居心地の良い空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 大島小松川公園の活用：大島小松川公園の存在が大きい。大島小松川公園の更なる活用が必要。スケボーの堀米パーク併設、多世代交流の場の演出 豎川河川敷公園等の整備※：子供たちの球技遊びや、高齢者のパターンゴルフなどの利用頻度を上げる。町内や長寿会、各学校に声かけをして、安心、安全をアピールする。ベンチを増設し、ブルーシートは撤去する。+ 豎川は一部泥がたまっていたり、水が濁っていたり、もう少しお金をかけてきれいに整備できないのか。 公園のようなまちづくり※：河川や公園、大規模団地の緑地など、滞在して居心地の良い緑陰空間やオープンスペースが、緑道や街路の緑陰空間でつながるよう、居心地の良い道路・街路づくりを進めると共に、公園や大規模団地の緑地などを活用する屋外アクティビティを活性化し、「行きたくなる」公園づくり・緑地づくりを推進。河川や緑地を活用した交流や活動（防災ゲームやマルシェ、キャンプなど）、街をまるごと活用したアクティビティ（ウォーキングやノルディックウォーキングなど）、緑陰空間を誘引する植栽管理。イベントは、災害時に、河川を利用した物資供給の訓練や、キャンプの知識を活用した防災対策につながる。
健康を支えるアクティビティが活発で、新たな交流が生まれるまち	多様なアクティビティが行われるまち	<ul style="list-style-type: none"> 川沿いでサイクリング、ウォーキング環境整備：川の駅のトイレは土日のみ営業。川沿いはせっかくの資源なので活用し人を呼び込みたい。豎川、小名木川からのアクセスを向上し自転車等での移動、公園からの人の流れが作れるとよい。 オリンピックレガシーを活用したスポーツ振興：オリンピックレガシーを活用したスポーツの聖地化する。各エリアの特色に沿って魅力を高めていけるとよい。 豎川におけるアクティビティの環境充実：既存のカヌー・フットサル・パターゴルフにスケボーなど高速の「屋根」を最大限に活用 小名木川と周辺地域の連携によるイベントと新たな取組の強化：川沿いの通路は狭いので、沿岸の大島稲荷神社・宝塔寺の境内、塩の道橋・クローバー橋の上などを借りてイベント。同時にまち歩き（史跡とスポーツ紹介）、総合区民センター・東大島文化センター・中川船番所資料館などで展示・講演会・体験教室など+Wi-Fiの整備等も行う。日常時は観光、非常時には防災の拠点としても使える水辺空間（水路）があると良い。まずは小名木川から活用できるのではないかと。人が通れる場所+自転車ルートがあれば、アクセスしやすい。 ウォーター&グリーンプロジェクト※：各町会と商店街による、緑道公園等でのカフェ等の出店+水辺空間を生かした「そらまめ祭り」のような、川筋で楽しむイベントを隣接する町会・商店会・企業などがそれぞれに企画して、同時期に開催。コミュニティ形成の場、安らぎの場、防災・避難のツールなどに活用可能 みんなが思い思いに楽しめる場所活用プロジェクト：カヌーラジコンヨットジョギングなど多様なアクティビティがあり、くつろぎ空間を楽しみしつらいもある場所にする（旧中川川の駅）+カヌー体験・和船乗船・スカイダック・模擬店 自然資源を活かした体験・教育の場づくり：川に囲まれている自然環境、大島小松川公園といった資源、若い世代が集まる理由として農業や食育も絡めた仕組み。水辺や緑が豊富な環境、自然や河川を活かして体験出来る場所整備【大島9丁目有地、大島小松川公園など】

小名木川・旧中川・豎川周辺		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島）
<p>豎川河川敷公園等の整備</p> <p>豎川におけるアクティビティの環境充実</p> <p>自然資源を活かした体験・教育の場づくり</p> <p>エリア全体での連携 公園のようなまちづくり</p> <p>エリア外との連携 オリンピックレガシーを活用したスポーツ振興</p>		<p>川沿いでサイクリング、ウォーキング環境整備</p> <p>ウォーター&グリーンプロジェクト</p> <p>大島小松川公園の活用</p> <p>みんなが思い思いに楽しめる場所活用プロジェクト</p> <p>水生植物や生物の多様性を学ぶ場づくり</p> <p>小名木川と周辺地域の連携によるイベントと新たな取組の強化</p>

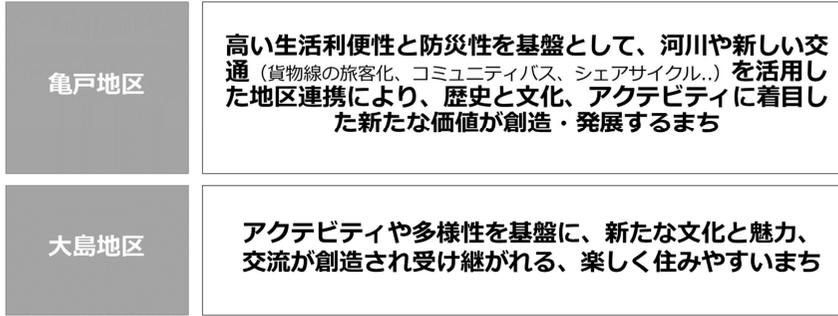
小名木川・旧中川・豎川周辺		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島） ※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見
将来イメージ案	将来イメージ (第2回WS意見)	取組
生物多様性が保全され、先進的な学びの場となるまち	水辺と緑の資源を活用した、水生植物や生物の多様性を学ぶ場が豊富なまち	<ul style="list-style-type: none"> 水生植物や生物の多様性を学ぶ場づくり：仙台堀川公園、清洲橋から小名木川は水辺（公園内に池など）があり、水生植物や生物の多様性を学ぶ場になると子供を含めた交流の場として活用可能。他の公園に無い魅力的な個性を打ち出せる。
川を介してエリアとエリアがつながる交流が盛んなまち		

■大島地区 第3回 自分のまちのプロジェクトをまとめよう

城東北部地区（亀戸+大島地区）の将来ビジョン案（再掲）

城東北部地区は亀戸地区、大島地区の2班に分かれて将来ビジョン案を検討しました。2班のワークショップの意見に基づき、事務局にて城東北部地区全体の将来ビジョン（案）をとりまとめました。ビジョン案は今後、行政と調整し表現を精査する予定です。

多様性、防災性を基盤に、河川や新しい交通を活用した地区連携が進み、新たな歴史と文化、魅力や交流が創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち



1

■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島）

※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加

城東北部地区（大島地区）の将来ビジョン（WS最終案）

アクティビティや多様性を基盤に、新たな文化と魅力、交流が創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち

【大島地区】 緑字：事前意見

エリア	エリア別の将来ビジョン案
西大島駅～大島4丁目	<ul style="list-style-type: none"> 都市型拠点にふさわしい、高い機能を有する駅前エリア 個性ある商店街が連携し、にぎわいが絶えないまち 商店街や公園、団地、町工場が連携し、新たな文化が創出されるまち スポーツなど多様なアクティビティが行われ、歩いて暮らせるまち コミュニティカが地域の資源を活用して育まれ、交流が盛んなまち 公園のような魅力が身近に感じられるまち 地域の資源が連携する、防災力の高いまち
大島6丁目	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた住宅中心のまち 個性ある商店街が連携し、にぎわいが絶えないまち 商店街や公園、団地、町工場が連携し、新たな文化が創出されるまち 水辺と緑、住宅地のつながりがあり、くつろげるまち 地域の資源が連携する、防災力の高いまち
小名木川・旧中川・竪川周辺	<ul style="list-style-type: none"> 水辺と緑の資源が身近に感じられ、居心地の良いまち 健康を支えるアクティビティが活発で、新たな交流が生まれるまち 生物多様性が保全され、先進的な学びの場となるまち 川を介してエリアとエリアがつながる交流が盛んなまち

2

■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島）

※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加

アクティビティや多様性を基盤に、新たな文化と魅力、交流が創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち

第3回ワークショップ、オープンハウスにて、将来ビジョンに関連する意見を頂きました。

カテゴリ	意見
自然環境 賑わい・ 交流	<ul style="list-style-type: none"> 竪川と小名木川の間にある【島】のイメージを持ちながら、竪川も小名木川も自然を活かしたまちづくりに資するように作り変えていき、川面が東西に行き来する流れに挟まれた、【人々が気軽に行き交う人情ある文化地区】のようなイメージが将来ビジョンに出れば、さらに良いと考えています。 ピオトーブなどの良好な自然環境保全、スポーツのまちづくりの充実化 阿佐ヶ谷（触れ合い農園）農業菜園で育て方・育てた野菜等を使った料理方法などを体験できる。土いじりの体験→自宅でのプランター菜園、コンポストなどに活用。 川に囲まれている自然環境、大島小松川公園といった資源、若い世代が集まる理由として農業や食育も絡めた仕組みもいのではないかと。水辺や緑が豊富な環境、自然や河川を活かして体験出来る場所もあるのではないかと。例：大島9丁目有地 災害時に栽培したものを活用する、屋外での調理体験等は災害時にも役立つ経験になる。箱物を建てるより人が集まりやすい。 毎年リバーフェスタを開催しており、地域の方どんなテーマにするか意見交換をしている。地域の方から「水辺の遊園地」という意見が出ている。「遊び」というキーワードが欲しい。普段からよく利用されているので、みんなが使うといったイメージがあると良い。 観光の視点で、船着場の空間演出ができると良い。今度コミュニティガーデンを川の駅につくることになっていて。施設保全課や河川公園課と連携して実施しているが、行政の連携も含めて柔軟に取り組めるようになるとうと良い（例：高橋）。 都電を通っていた跡地が緑道公園になっていて、桜並木にもなっている。人と自転車と同時に通って危険。歩行者専用の緑道にしてほしい。休みの日にはカフェなども出店され、にぎわいが出てくると良い。竪川は一部泥がたまっていたり、水が濁っていたり、もう少しお金をかけてきれいに整備できないのか。もっといい。 橋十間川も含めて4つの川がある。水辺を活用してイベントを実施する時は盛大に、日常時は静かな住宅地を保全する。竪川は首都高で暗くはなってしまうているが、屋根があるというようなプラスに捉えて、河川をどう活用できないか。同時に、まちの歴史も知ってもらいたい。 川の駅も週末くらいしか人が来ないが、旧中川がこんな場所になったのは感慨深い。ただの憩いの場、安らぎの場だけでなく、河川沿いの空間の積極的な活用が出来ると良い。江東区の河川は、憩いの場でもあがるが、モノを運ぶような運河。（災害のことも視野に入れながら）もっとその先の積極的な活用に取り組むべき。

3

■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 城東北部地区（大島）

※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加

アクティビティや多様性を基盤に、新たな文化と魅力、交流が創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち

第3回ワークショップ、オープンハウスにて、将来ビジョンに関連する意見を頂きました。

カテゴリ	意見
地域資源 活用 まちの個性・魅力 文化 賑わい・ 交流	<ul style="list-style-type: none"> 【西大島～大島4丁目】通称羅漢通りで江戸時代から栄えた明治通り、交差する新大橋通りの活性化を望む。亀戸のアトレ・北砂のアリオといった大規模商業施設はない、大島根生いの商店が現れてほしい。 従来からの資産・資源を活かし、新しい都市の魅力をつくる。外国人も増え、安心なまちづくりを目指す大島地区としての魅力を作っていくのは大変良い。 竪川と小名木川に挟まれている島のような地形。外国人観光客などは南部に行ってしまうがち。新たな観点での魅力創出のための起爆剤として資源を活用し魅力的な魅力と歴史や新たな文化を作っていく必要。 新しい文化を作っていくために地元の資源を活用、そこに外国人や若い人への訴求力もあるとよい。 大島は起爆剤となるほどの歴史がないので新しい魅力を創っていく必要がある。その一環として、小名木川沿いの水路の活用ができないか。 町工場、ものづくりは重要。昔のテンポラリーセンターのようなシェアして利用できる小さな作業場などが、空き地や倉庫を活用して出来ると良い。アートの要素も含まれている。
多様性 賑わい・ 交流	<ul style="list-style-type: none"> 【大島6丁目】6丁目団地の中庭には毎日曜日に市が立つ。以前より小規模にはなったが、団地に暮らす人のみならず、近隣の人にも役立っている。団地を通じて外部の人にも利用できるスペースは大事にしたい。商店街の片側が6丁目の中の橋商店街は、区を代表する商店街。新しい店も生まれているようで、「再生力」の強さを感じさせている。 若い世代を引き付け、受け入れていく新しい観点、次世代を担う人々を集めるまちづくり施策が重要。 外国人との交流、外国人も暮らしやすい街づくり、新たに若い世代を引き付ける工夫や施策、若い世代を積極的に受け入れていくためのまちづくりの視点。 オリパラビジョンでは多様性が掲げられており、コンセプトの継承として多様性を文言に入れてもいいのではないかと。

4

**アクティビティや多様性を基盤に、新たな文化と魅力、交流が
創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち**

第3回ワークショップ、オープンハウスにて、将来ビジョンに関連する意見を頂きました。

カテゴリ	意見
防災	<ul style="list-style-type: none"> 将来ビジョンとして掲げられている「防災性」については、すでに明瞭な基盤がある、というよりは、これからさらに高めていく必要があるものと認識。→高い生活利便性、歴史と文化、地域の資源を活用したアクティビティを基盤に、新たな価値が創造されるまち（価値の中に防災が含まれていく。） 街としての地震対策+防災・防火対策により、安心して暮らせる安全なまちづくり 都電が走っていた頃、堅川で川が氾濫しそうな状況も何度か見てきた。3丁目、8丁目、6丁目の団地以外、7丁目も対策必要。 都市マス全体、より上位の概念の中で防災力を促えた方がよい。江東区全体での防災力の向上が必要 各エリアのビジョンに防災にかかるビジョンを含めてはどうか。すでに防災力が基盤としてあるように感じられるので、高めていく必要があるが、ビジョン案では、現在の文案に含まれている認識。
団地 マンション 連携	<ul style="list-style-type: none"> 団地ができた当時は家族連れも多く、子供がたくさんいた。高齢化が進み、建て替えの問題も今後出てくる。その際に、スムーズに建て替えが進むことが望ましい。 団地も高齢化が進んでいる。日曜日に団地内で市場があるが、昔はすごく賑わっていた。団地の方々だけでなく、外から中へ、中から外へ、もっと交流していくことが、これからの団地の姿として重要。 垂直避難の時に、地元からすると団地は避難場所として重要。 町会を維持、担い手を育成していくことが重要。マンションが出来たときにぜひ町会に加入してもらおうようお願いするが、お願いをした人と管理する人は別。マンションに住んでいる人々が町会に入るかどうか、コントロールするのは実際には難しい。
賑わい・ 交流 開発	<ul style="list-style-type: none"> 10年以上前から大島3丁目の1番地に再開発が計画されているが、まだ認可が下りていない。タワーマンションが出来ると予想。地元としては、再開発を進めていただきたい反面、高さの問題意識を持っている方もある。一方で、賑わいを創出する場所になっていくとありがたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> よくある単語ではなく、区内にどんな資源や価値観があるかを洗い出し、特徴的な将来イメージを作りたい。もっと時間をかけて議論したかった。